2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	情報科学Ⅱ	担当教員 （実務経験）	笹谷　純代 有 ☑　無 ☐　IT講習、雇用促進等のインストラクターとして20年以上にわたり従事		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な、情報リテラシーと Microsft Word、Excel、PowerPointの操作方法を身につけることを目的とする。また、社会生活において必要となる、情報やデータの処理方法と操作方法、それらを有効活用するための知識を習得して、現代社会に適応していく能力を身につける。				
到達目標	①Wordを使ってレポートやポスターが作成できる。　②Excelを使って集計表が作成できる。　③PowerPointを使ってスライドが作成できる。 ④情報化社会でのモラルや責任について、自己の考え方を説明できる。				
テキスト・参考図書等	30時間アカデミック　情報リテラシー　Office2016 Windows 10対応				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	・各試験の平均点50% ・提出物50%
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	50%	
	その他	%	

履修上の留意事項	①授業はPC室で行うので時間までに着席していること。②説明と実習（実習がメイン）③テキストは1年時のものを使用する。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	コンピューターとインターネット（序章）	ネット社会でのトラブル、回避するために
	2	文書化の応用（第2章 付録）	ビジネス文書の基礎知識
	3	文書化の応用（第2章7）	長文作成をサポートする
	4	文書化の応用（プリント）	住所録作成、差し込み印刷、はがき印刷
	5	文書化の応用（プリント）	名刺作成、宛名ラベル作成
	6	文書化の応用（プリント）	ポスター作製、
	7	表計算ソフトの活用（第3章5）	いろいろな数式（絶対参照、いろいろな関数）
	8	表計算ソフトの活用（第3章7）	データベースの利用（並べ替え、データの抽出）
	9	表計算ソフトの活用（第3章8）	ExcelのデータをWord文書に貼り付ける
	10	表計算ソフトの活用（プリント）	ピボットテーブル
	11	表計算ソフトの活用（プリント）	さまざまな集計表
	12	表計算ソフトの活用（プリント）	さまざまな集計表
	13	プレゼンテーションソフトの活用（第4章7）	スライドショーをサポートする機能
	14	プレゼンテーションソフトの活用（第4章 付録）	プレゼンテーションの基礎技能
	15	まとめ	総合演習、情報モラル

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　**理学療法学科**

授業科目（科目ID）	解剖学実習 23p202	担当教員 （実務経験）	飯島　治之 有 ☑　無 ☐　医学博士を有し解剖学講師として10年以上従事		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	・理学療法の基礎になる骨・筋を主に各種臓器を模型等を観察し実習を行う。さらに解剖された人体観察を通して、その構造と各器官の連関を理解する。				
到達目標	・骨や筋をはじめとする人体臓器の構造、名称や位置および構造について説明することができる。				
テキスト・参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	小テスト、後期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	50%	
	提出物	0%	
	その他	%	

履修上の留意事項	必ず予習・復習すること。1年次に学んだ内容が基礎となるため自ら能動的に調べることを通して主体的に学習すること。講義後の確認テストは必ず見直しを行い理解すること。 解剖実習見学では、敬意を持ち医学を学ぶ学生として積極的に学習に取り組むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	骨学実習	オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習
	2	骨学実習	オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習
	3	骨学実習	オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習
	4	骨学実習	オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習
	5	筋学実習（上肢・下肢・体幹）	筋の名称や位置・構造について学習
	6	筋学実習（上肢・下肢・体幹）	筋の名称や位置・構造について学習
	7	筋学実習（上肢・下肢・体幹）	筋の名称や位置・構造について学習
	8	筋学実習（上肢・下肢・体幹）	筋の名称や位置・構造について学習
	9	靭帯学実習	靭帯の名称や位置・構造について学習
	10	脳・脊髄	脳・脊髄の名称や位置・構造について学習
	11	脳・脊髄	脳・脊髄の名称や位置・構造について学習
	12	神経系	神経の名称や位置・構造について学習
	13	心臓・肺・その他臓器	心臓・肺・肝臓・腎臓・胃・腸など主な臓器の名称や位置・構造について学習
	14	各臓器、器官のつながり	1～13回で学んだ位置や構造の関係性について学習
	15	各臓器、器官のつながり	1～14回で学んだ位置や構造の関係性について学習

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・ 履修内容	16	各臓器、器官のつながり	1～13回で学んだ位置や構造の関係性について学習
	17	解剖学実習見学のオリエンテーション	人体解剖学実習見学にあたってのオリエンテーション
	18	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	19	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	20	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	21	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	22	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	23	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)

授業科目 （科目ID）	解剖学実習 23p202	担当教員 （実務経験）	二宮　孝文 有 ☑ 無 ☐ 道内・道外医科大学にて解剖学講座に所属し40年以上の経験を有する
対象年次・学期	2年・通年	担当教員 （実務経験）	山内　真帆 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院に理学療法士として8年勤務
授業形態	実習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	運動学実習	担当教員（実務経験）	横野　裕行 有 ☑　無 ☐　道内・外の病院で理学療法士として8年勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	理学療法士、作業療法士にとって運動時の身体の現象を捉え理解することは非常に重要である。本科目では、実習を通して観察・測定・分析の各段階を体験し、理解を深めることが目的である。				
到達目標	・身体運動によって生じる諸現象の基本的事項について説明できる。 ・実習結果をまとめ、結果が生じた理由・原因について考察することができる。				
テキスト・参考図書等	基礎運動学（第6版　補訂） 運動学実習　第3版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	0%	レポート点100% 詳細については、初回のオリエンテーションで説明する
	レポート	100%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項
レポートはオリエンテーションを参考にして、充実した内容のものを作成すること。探究心を持って取り組むことを勧める。また、レポート提出は期限を厳守すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション・体表解剖	授業オリエンテーション、レポート課題の書き方、体表解剖（ランドマーク触診）
	2	オリエンテーション・体表解剖	授業オリエンテーション、レポート課題の書き方、体表解剖（ランドマーク触診）
	3	実習1	最大化酸素摂取量の推定（心拍数）
	4	実習1	筋力測定
	5	実習1	歩行分析
	6	実習1	嫌気性代謝閾値の推定（呼気ガス）
	7	実習2	重心位置推定
	8	実習2	重心位置推定
	9	実習2	重心位置推定
	10	実習2	重心位置推定
	11	実習3	筋力測定
	12	実習3	筋力測定
	13	実習3	筋力測定
	14	実習3	筋力測定
	15	実習4	歩行分析

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	実習４	歩行分析
	17	実習４	歩行分析
	18	実習４	歩行分析
	19	実習５	嫌気性代謝閾値の推定（呼気ガス）
	20	実習５	嫌気性代謝閾値の推定（呼気ガス）
	21	実習５	嫌気性代謝閾値の推定（呼気ガス）
	22	実習５	嫌気性代謝閾値の推定（呼気ガス）
	23	まとめ、フィードバック	まとめと復習

授業科目 （科目ID）	運動学実習	担当教員	竹中　謙将
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法士として勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員	武田　祐貴
授業形態	実習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
		担当教員	元木　純
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員	吉田　智子
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内整形外科病院にて理学療法士として10年以上勤務
		担当教員	小野　直也
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内回復期病院で理学療法士として5年勤務
		担当教員	和田　英峰
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内病院にて作業療法士として8年勤務
		担当教員	池田　保
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内病院にて作業療法士として10年勤務
		担当教員	水尻　恵利伽
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内病院・介護保険施設にて作業療法士として5年勤務
		担当教員	山田　里見
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内病院にて作業療法士として6年勤務
		担当教員	山内　真帆
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内の病院で理学療法士として8年勤務

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	臨床心理学	担当教員（実務経験）	久原　奈緒子 有 ☑　無 ☐　道内スクールカウンセラーとして10年の実務経験あり		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	様々な心理療や心理査定、事例を通して精神疾患、発達障害について幅広く学んでいきます。心理療法や心理査定の基本的な知識を修得すること、また精神疾患、発達障害の方々の特徴や特性をふまえた対応方法について身につけられるようにすることを目的とします。				
到達目標	医療現場で最低限必要であろう精神疾患や発達障害の症状や特性、対応方法の理解、心理療法の概要を知り、対象者からの情報収集の方法、また体験を通して自己を理解し、自らのストレスコーピングについても身につけることができることを目標とします。				
テキスト・参考図書等	教科書　よくわかる臨床心理学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験および提出物にて評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	%	

履修上の留意事項	必ずしも教科書に従って講義を進めるとは限りませんが、事前に一読下さい。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	臨床心理学の基礎理論、アサーション	各理論の概要、アサーション体験
	2	発達障害①	注意欠陥・多動性障害、行為障害、学習障害
	3	発達障害②	自閉性障害、チック症、精神遅滞、知的障害
	4	不安と身体関連障害①	気分障害（うつ病・双極性感情障害）、睡眠障害
	5	不安と身体関連障害②	薬物・アルコール依存症、摂食障害
	6	不安と身体関連障害③	ストレス関連障害（恐怖症、パニック障害、PTSD、強迫性障害）
	7	不安と身体関連障害④	人格障害、統合失調症
	8	アセスメント①	心理検査法（質問紙法、投影法、作業検査法）の概要他
	9	アセスメント②	初回面接（インテーク面接）の概要他
	10	心理療法①	支持的精神療法、表現療法
	11	心理療法②	訓練療法（自律訓練法）、行動療法（系統的脱感作法）
	12	心理療法③	洞察療法（来談者中心療法）、認知療法
	13	心理療法④	その他の療法（内観療法）
	14	心理療法⑤	芸術療法（描画療法、サイコドラマ、音楽療法、コラージュ療法）
	15	心理療法⑥	ソーシャルスキルトレーニング

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	一般臨床医学	担当教員（実務経験）	鬼原　彰 有 ☑　無 ☐　市内の医科大学にて内科学教授として教育に従事、その後、市内病院で内科医として勤務。		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	・臨床系科目の中で、内科学、精神医学などカリキュラムに取り入れられている科目以外の領域を学習するものである。 ・多くの臨床系科目が含まれており、要点のみの講義となるので、さらに他の成書を用いて学習を深めることが必要である。				
到達目標	・下記の診療科目に関して、主要な疾患概要の理解を深める				
テキスト・参考図書等	PT・OT・STのための一般臨床医学　第3版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	欠席せず、予習復習をすること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	外科総論	機械的・非機械的損傷、感染性疾患、抹消血行障害、腫瘍、臓器移植
	2	脳神経系外科	主な脳神経系疾患とリハビリテーション
	3	脳神経系外科	主な脳神経系疾患とリハビリテーション
	4	消化器系外科	主な消化器系疾患とリハビリテーション
	5	消化器系外科	主な消化器系疾患とリハビリテーション
	6	循環器系外科	主な循環器系疾患とリハビリテーション
	7	循環器系外科	主な循環器系疾患とリハビリテーション
	8	救命救急医療	心肺蘇生法、ショック、呼吸管理、中心静脈栄養、輸血法、救急処置、ICU
	9	皮膚疾患	解剖、生理、症状、病態生理、主な皮膚疾患、内科系疾患と皮膚病変
	10	泌尿器科・生殖器疾患	解剖、生理、診断、検査、主な泌尿器科と生殖器疾患
	11	婦人科産科疾患	解剖、生理、妊娠、分娩、出産、異常妊娠と合併症、女性生殖器疾患
	12	眼疾患	解剖、生理、症状、病態生理、主な眼疾患
	13	耳鼻咽喉科疾患	解剖、生理、症状、病態生理、主な耳疾患、鼻疾患、咽頭疾患、喉頭疾患
	14	老年医学とプライマリケア	老年者医療に必要なプライマリケアとリハビリテーション
	15	老年医学とプライマリケア	老年者医療に必要なプライマリケアとリハビリテーション

授業科目 （科目ID）	一般臨床医学	担当教員 （実務経験）	外部講師 有 ☑ 無 ☐ 病院勤務の臨床医
対象年次・学期	2年・後期	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	講義		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	内部障害学	担当教員（実務経験）	鬼原　彰 有 ☑　無 ☐　市内の医科大学にて内科学教授として教育に従事、その後、市内病院で内科医として勤務。		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	・人間の基本的構造とその機能をコントロールする3つのシステムである神経系、内分泌系、免疫系がどのようにして細胞レベル、組織レベル、個体レベルの機能維持とかかわりを有しているかを学び、それをリハビリテーションに応用する。				
到達目標	・各臓器系統別に疾患の成り立ちと診断・治療上の要点を学び、理学療法に応用できる。				
テキスト・参考図書等	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学　第3版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	参考	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	欠席せず、予習復習をすること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	生体学総論（1）	個体・器官・細胞の機能とリハビリテーション
	2	骨・関節・筋疾患	骨・関節・筋の機能と疾患の診断・治療
	3	ニューロンによる細胞性コントロール	脳・神経系機能と疾患の診断・治療
	4	ニューロンによる細胞性コントロール	脳・神経系機能と疾患の診断・治療
	5	ホルモンによる液性コントロール	内分泌の機能と疾患の診断・治療
	6	ホルモンによる液性コントロール	内分泌の機能と疾患の診断・治療
	7	免疫（細胞性・液性）によるコントロール	免疫の機能とアレルギー・膠原病の診断・治療
	8	免疫（細胞性・液性）によるコントロール	免疫の機能とアレルギー・膠原病の診断・治療
	9	生体学総論（2）	個体・器官・細胞の機能とリハビリテーション
	10	消化器系疾患	消化器（消化管・肝・胆・膵）の機能と疾患の診断・治療
	11	消化器系疾患	消化器（消化管・肝・胆・膵）の機能と疾患の診断・治療
	12	代謝系疾患	代謝疾患の診断・治療
	13	循環器系疾患	循環器（呼吸器・心血管・腎）の機能と疾患の診断・治療
	14	循環器系疾患	循環器（呼吸器・心血管・腎）の機能と疾患の診断・治療
	15	血液造血器疾患	血液の機能と疾患の診断・治療

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	運動器障害学 23o207	担当教員 （実務経験）	伊藤　雄人 有 ☑　無 ☐　市内整形外科クリニックで整形外科医として勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	PT・OTにとって安全で効果的な治療をするために必要不可欠な、疫学・発症メカニズム・代表的な検査・治療法を運動器疾患の総論および各論を通じて学習し理解する。				
到達目標	①総論として、整形外科領域における診断法・治療法・外傷学を学習・理解し、それぞれの要点について説明・記述ができる。 ②各論として、各関節に代表的な運動器疾患の症状・発症メカニズム・検査・治療について説明・記述ができる				
テキスト・参考図書等	標準整形外科学　第14版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	
履修上の留意事項	積極的に質問すること。		

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	整形外科総論	診断・治療総論
	2	疾患疾患総論	外傷総論・軟部組織損傷（末梢神経損傷・脱臼・靭帯損傷）
	3	疾患疾患総論	骨折
	4	疾患疾患総論	軟部組織・骨・関節の感染症
	5	疾患疾患総論	四肢循環障害の診察・診断
	6	疾患疾患総論	代謝性骨疾患・骨腫瘍
	7	疾患疾患総論	関節リウマチ
	8	疾患疾患総論	変形性関節症
	9	疾患各論	足部・足関節疾患
	10	疾患各論	膝関節疾患
	11	疾患各論	股関節疾患
	12	疾患各論	脊椎・胸郭疾患
	13	疾患各論	上肢疾患①（肩関節疾患）
	14	疾患各論	上肢疾患②（肘・手関節疾患）
	15	疾患各論	上肢疾患③（上肢のスポーツ障害）

授業科目 （科目ID）	運動器障害学 23o207	担当教員 （実務経験）	江戸　香苗 有 ☑ 無 ☐ 道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員 （実務経験）	元木　純 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
授業形態	講義		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　専門学校北海道リハビリテーション大学校　作業療法学科

授業科目（科目ID）	神経障害学	担当教員（実務経験）	中村 仁志夫 有 ☑ 無 ☐ 新潟大学脳研究所で7年間研究の後、北海道大学で神経病理学に携わり、25年以上各養成校で教員として勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	ヒトの精神・身体活動は全身系としての神経系に負うところが大きい。神経系の主要部分は非再生系に属し、傷害された組織の機能（機能障害）を回復、補填するには障害克服の基本戦略に基づく理念（リハビリテーション計画）が重要である。その基軸となるべき神経学を主な疾患の特徴を把握しつつ、毎回の授業後に提示される課題に対する回答の推敲を受けつつ、各自が充実した内容を修得することを目標とする。				
到達目標	1）脳機能の局在と特性について例示し説明できる。 2）運動神経系と感覚神経系の障害を例示し、説明できる。 3）脳血管障害の病態を説明できる。 4）神経変性疾患を例示し、説明できる。 5）脳腫瘍や神経筋疾患を例示し説明できる。 6）認知症の病態を理解し、その対応を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・「病気がみえる」第7巻 脳・神経　第2版（メディックメディア社） ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 「神経内科学」 第4版（医学書院） ・「医療系学生のための病理学」 第4版第19章（講談社）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	42%	毎回のカード（小課題の演習と理解内容の確認及び質問と回答）についての添削と評価（70点満点）と定期試験（筆記・50点満点）の成績とを合わせて全体的評価とする。
	レポート	0%	
	小テスト	0%	
	提出物	58%	
	その他	0%	

履修上の留意事項	1）病理学の本（特に第19章）も常に脇に置くこと。、2）解剖学・生理学の知識を常に復習すること。、3）新聞や雑誌の病気の記事をよく読むこと。 4）主要な医学用語については和名だけではなく、英語名による習得に努めること。 5）毎回のカードは各自の努力によって作成し、友達の書いたものを引き写す行為は自尊心を培うために極力避けること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	神経学の歴史における重要人物の把握、医療倫理の基本	医聖ヒポクラテス、神経学の父シャルコー、脳外科の父クッシング、変性性認知症の父アルツハイマー、遺伝性舞踏病の発見者ハンチントン、看護の母ナイチンゲール、教育者オスラー、X線の父レントゲン、錐体外路系の提唱者平澤興らの業績を知ることにより、医療人存在の理念を学ぶ
	2	神経解剖学（1）	脳幹の範囲、脳機能の局在、優位半球と劣位半球、日本人の脳、錐体路
	3	神経解剖学（2）	錐体外路系、感覚路、脳血管系の解剖、髄液循環、血液脳関門
	4	神経解剖学（3）	自律神経系、脊髄の解剖、脳神経症状の見方
	5	神経学的診断法	運動調節・感覚の検査、腱反射など、画像検査の種類と対象となる疾患
	6	神経学的検査法	CTとMRI、脳波、髄液検査などの基本的知識と応用（てんかんを含む）
	7	意識障害・運動麻痺	意識障害の分類、脳死の定義、運動麻痺と錐体路のレベル
	8	錐体路と錐体外路系	随意運動と不随意運動、運動ニューロン病（ALSほか）、パーキンソン症候群
	9	運動失調について	ハンチントン病、脊髄小脳変性症など（多系統萎縮症を含む）の症候と分類
	10	失語症と認知症	失語症の分類、認知症の分類と対策、アルツハイマー病など
	11	脳血管障害	脳梗塞（脳血栓と脳塞栓）、脳出血、くも膜下出血、脳動脈瘤など
	12	脳腫瘍	グリオーマと非グリオーマ（髄膜腫ほか）、母斑症
	13	神経難病（1）脱髄疾患など	多発性硬化症、副腎白質ジストロフィー、脊髄空洞症、先天性代謝異常
	14	神経難病（2）神経筋疾患など	筋ジストロフィー症、重症筋無力症、栄養障害、ミトコンドリア脳筋症など
	15	プリオン病ほか、まとめ	ヤコブ病とBSE、臨床神経学の今後の課題

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	精神障害学	担当教員 （実務経験）	鵜飼 渉 有 ☑ 無 ☐ 市内医科大学にて大学教員、精神科医として15年以上勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	各種精神疾患の基本症状と治療法について、最新知見を織り交ぜながら講義する。リハビリテーションにおける患者の理解に必要な基礎知識を学ぶ。				
到達目標	各種精神疾患の基本症状と治療法について理解する。				
テキスト・参考図書等	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　精神医学　第4版 参考図書：新精神医学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	生物的な視点、心理的な視点、そして社会的な視点から精神疾患や精神障害を学ぶ。精神医学の知識を持たずして作業療法の治療実践は成り立ちません。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	精神医学総論、成因・分類、生物学的精神医学	精神医学とは、概念、歴史、3つの成因について、ストレス脆弱性モデル
	2	精神医学総論、成因・分類、生物学的精神医学	精神医学とは、概念、歴史、3つの成因について、ストレス脆弱性モデル
	3	気分障害、人格障害、感情障害の生物学	人格とは、行動の障害、性の障害、気分障害の概念、うつ病、操うつ病、持続性気分障害、経過及び予後、治療と援助、リハビリテーション
	4	気分障害、人格障害、感情障害の生物学	人格とは、行動の障害、性の障害、気分障害の概念、うつ病、操うつ病、持続性気分障害、経過及び予後、治療と援助、リハビリテーション
	5	統合失調症	成因、疫学、症状の捉え方、診断、経過と予後、社会生活面での障害、治療とリハビリテーション
	6	統合失調症	成因、疫学、症状の捉え方、診断、経過と予後、社会生活面での障害、治療とリハビリテーション
	7	神経性障害、心身症	神経症の捉え方、恐怖及び不安を中心とするもの強迫を中心とするもの、ストレス関連障害、解離・転換を中心とするもの、身体表現性、その他、定義と概要、心身症としての諸疾患
	8	神経性障害、心身症	神経症の捉え方、恐怖及び不安を中心とするもの強迫を中心とするもの、ストレス関連障害、解離・転換を中心とするもの、身体表現性、その他、定義と概要、心身症としての諸疾患
	9	アルコール依存症、薬物依存症	診断と治療飲酒による酩酊と乱用、アルコール依存症候群、アルコール依存症を基盤に生じる精神障害、アルコール依存症の子供の問題、地域ネットワーク、家族の問題、睡眠薬・抗不安薬、有機溶剤・覚せい剤・大麻・モルヒネ・コカイン関連、地域ネットワークとチームアプローチ
	10	アルコール依存症、薬物依存症	診断と治療飲酒による酩酊と乱用、アルコール依存症候群、アルコール依存症を基盤に生じる精神障害、アルコール依存症の子供の問題、地域ネットワーク、家族の問題、睡眠薬・抗不安薬、有機溶剤・覚せい剤・大麻・モルヒネ・コカイン関連、地域ネットワークとチームアプローチ
	11	児童・青年期障害、発達障害	精神・心理発達の特性、行動及び情緒障害、その他の精神障害、心理的発達の障害とは、特異的発達障害、広汎性発達障害、治療とリハビリテーション
	12	児童・青年期障害、発達障害	精神・心理発達の特性、行動及び情緒障害、その他の精神障害、心理的発達の障害とは、特異的発達障害、広汎性発達障害、治療とリハビリテーション
	13	心理検査、心理療法、メンタルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検査、各種心理療法とその実際
	14	心理検査、心理療法、メンタルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検査、各種心理療法とその実際
	15	老年期精神医学	心理社会的特性、初老期・老年期の精神障害、リエゾン精神医学とは、リエゾン精神医学が必要となる精神疾患・症状、精神的・心理的問題、精神障害と刑法、民法、精神鑑定、精神の病と社会の関係、学校・職場・家庭のメンタルヘルス

授業科目 （科目ID）	精神障害学	担当教員	川村　舞
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 市内医科大学にて臨床心理士として20年以上勤務。札幌市スクールカウンセラーとして10年以上従事
対象年次・学期	2年・前期	担当教員	津山　雄亮
授業形態	講義	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 市内医科大学にて臨床心理士として5年以上勤務。札幌市スクールカウンセラーとして2年従事
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	発達障害学	担当教員（実務経験）	佐々木智教 有 ☑ 無 ☐ 市内小児施設にて理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	8	時間数	15時間
授業目的	「子どもは小さな大人ではない。」子どものからだの特徴、子ども特有の疾患・病態について学ぶ。また、近年その重要性が増している障害児の問題、障害児に対する医療の提供体制について重点的に学ぶ。				
到達目標	子ども特有の疾患・病態について理解する。				
テキスト・参考図書等	言語聴覚士のための基礎知識、小児科学・発達障害学　第2版　　**未定**				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	医療を志す者としての自覚を持ち、学習意欲を持って臨むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、小児科学概論	小児科学とは。小児科学を取り巻く環境の変化。小児医療における理学療法士・作業療法士の役割。
	2	胎児・周産期、新生児・乳児健診	胎芽病と胎児病、子宮内発育不全、周産期障害など。出生から退院まで。乳児の発達。乳児健診
	3	遺伝疾患・先天異常、神経疾患・てんかん	遺伝性疾患、染色体異常、奇形、先天異常。神経・筋疾患、てんかん、水頭症、中枢神経奇形、頭部外傷
	4	その他の疾患	循環器、呼吸器、消化器、代謝、内分泌、感染症、免疫、アレルギー、泌尿器、脳腫瘍
	5	小児の発達と成長、運動・知的・発達障害	発達の概念。健常な発達。小児の成長。運動発達障害、知的障害、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害（ADHD）
	6	重症心身障害	重症心身障害の特徴、側湾、姿勢異常、筋緊張亢進、摂食・嚥下の異常、呼吸障害、気管切開・咽頭気管分離。
	7	医療的ケア	在宅で医療的ケアを必要とする小児と家族の支援、訪問看護と訪問リハの連携、発達支援としての外来リハ。
	8	小児の在宅医療	小児の在宅医療における理学療法士・作業療法士の役割と期待するもの。
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	基礎作業学実習Ⅱ	担当教員（実務経験）	山田　里見 有 ☑　無 ☐　道内病院において作業療法士として6年勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	作業分析を通じて、作業と人間・環境との関係を捉えることができる。				
到達目標	作業体験を通じて、作業・材料・道具の特性を知る。作業実施の中で、リスク管理や治療目的などを捉えることができる。 作業分析を実施する中で、適応修正や段階付け・指導方法について考察することができる。				
テキスト・参考図書等	作業療法学ゴールドマスターテキスト　作業学、ひとと作業・作業活動				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	提出物点とは、作品点と作業分析表・作業計画・振り返り表などの提出課題点の合計である。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	100%	
	その他（出席点）	%	

履修上の留意事項	工程の長い体験を通じて作業分析表を作成する。プロジェクト学習体験も行う。作業特性に気付く体験を積むことを意識してほしい。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	授業オリエンテーション、家事動作（1）	授業オリエンテーション・家事動作概要
	2	家事動作（2）	家事動作に必要な能力について？フローチャート分析
	3	合同レク	4年生企画合同レク　レクレーション場面の作業分析
	4	合同レク	4年生企画合同レク　レクレーション場面の作業分析
	5	家事動作（3）	家事動作手順・分析項目の共有
	6	家事動作（4）	家事動作を実体験し分析および体験後の振り返り　予想との比較
	7	家事動作（4）	家事動作を実体験し分析および体験後の振り返り　予想との比較
	8	家事動作（4）	家事動作を実体験し分析および体験後の振り返り　予想との比較
	9	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成
	10	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成
	11	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成
	12	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成
	13	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成
	14	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成
	15	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・ 履修内容	16	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成
	17	陶芸	基本的工程と技法　用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り]　ろくろ作り体験
	18	陶芸	基本的工程と技法　用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り]　ろくろ作り体験
	19	陶芸	基本的工程と技法　用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り]　ろくろ作り体験
	20	陶芸	基本的工程と技法　用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り]　ろくろ作り体験
	21	陶芸	基本的工程と技法　用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り]　ろくろ作り体験
	22	陶芸	基本的工程と技法　用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り]　ろくろ作り体験
	23	陶芸	基本的工程と技法　用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り]　ろくろ作り体験

授業科目 （科目ID）	基礎作業学実習Ⅱ	担当教員	佐々木　修一
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　精神科病院、大学等で革細工を28年以上指導に従事
対象年次・学期	2年・通年	担当教員	下澤　敏也
授業形態	演習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　陶芸家として専門学校などで陶芸指導に従事・個展も実施
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	作業療法評価法Ⅱ	担当教員（実務経験）	山田　里見 有 ☑　無 ☐　道内病院にて作業療法士として6年勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義・演習	授業回数（1回90分）	45	時間数	90時間
授業目的	1年次の作業療法評価法Ⅰに引き続き、対象者理解および治療的介入に不可欠である「評価」に対する理解をさらに深める。また主に身体障がい領域における、基本的な評価手技の目的を学び、評価技術を習得し、評価実習での実践が可能となる。また、対象者評価から目標設定までの流れをペーパー上の症例を用いて体験する。評価計画書の作成、評価結果のまとめ、ICF分類、目標設定とそこに至る思考過程を表出する練習を行う。				
到達目標	各種評価を行う意味を答えることができる。各種評価技術を実践できるようになる。評価実習に向けて、精神・身体障がい分野における、情報収集方法、評価のまとめ方、ICF分類と作業療法目標設定が可能となる。				
テキスト・参考図書等	標準作業療法学　作業療法評価学、神経診察クローズアップ　正しい病巣診断のコツ、病気がみえるvol.7 脳・神経、　（参） 統合失調症うつ病の作業療法の進め方				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験（前期・後期） 実技試験（ROM-T）
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	2年次学年末の「評価実習」につながるものとなるよう、理解と習得に努めてください。実技試験も随時実施していきますので、各自合格水準に達するよう授業時間以外の実技練習を行ってください。自主的・積極的な取り組みを望みます。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	関節可動域測定①	関節可動域測定の意味と目的を理解する
	2	関節可動域測定②	上肢ROM測定技術を習得する
	3	関節可動域測定③	上肢ROM測定技術を習得する
	4	関節可動域測定④	上肢ROM測定技術を習得する
	5	関節可動域測定⑤	上肢ROM測定技術を習得する
	6	関節可動域測定⑥	上肢ROM測定技術を習得する
	7	関節可動域測定⑦	下肢ROM測定技術を習得する
	8	関節可動域測定⑧	下肢ROM測定技術を習得する
	9	関節可動域測定⑨	下肢ROM測定技術を習得する
	10	関節可動域測定⑩	下肢ROM測定技術を習得する
	11	関節可動域測定⑪	下肢ROM測定技術を習得する
	12	関節可動域測定⑫	頸部・体幹のROM測定技術を習得する
	13	関節可動域測定⑬	頸部・体幹のROM測定技術を習得する
	14	関節可動域測定⑭	頸部・体幹のROM測定技術を習得する
	15	関節可動域測定⑮	実技試験に向けたポイント確認　対象者の実践的測定場面での留意点

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	感覚検査①	感覚検査の概要を知り、感覚検査の意味と目的を理解する。
	17	感覚検査②	表在感覚検査方法を習得する
	18	感覚検査③	表在感覚検査方法を習得する
	19	感覚検査④	深部感覚検査を習得する　特殊感覚検査方法を習得する
	20	腱反射・病的反射①	腱反射や病的反射が生じる仕組みを知り、それらの徴候の意味を理解する。
	21	腱反射・病的反射②	腱反射検査方法を習得する。
	22	腱反射・病的反射③	腱反射検査方法を習得する。
	23	腱反射・病的反射④	病的反射検査方法を習得する。
	24	片麻痺機能検査①	連合反応、共同運動の知識を基に、片麻痺機能検査の意味と目的を理解する。
	25	片麻痺機能検査②	片麻痺機能検査（上肢）の検査手順を習得する。
	26	片麻痺機能検査③	片麻痺機能検査（上肢）の検査手順を習得する。
	27	片麻痺機能検査④	片麻痺機能検査（上肢）の検査手順を習得する。
	28	片麻痺機能検査⑤	片麻痺機能検査（下肢）の検査手順を習得する。
	29	片麻痺機能検査⑥	片麻痺機能検査（下肢）の検査手順を習得する。
	30	片麻痺機能検査⑦	片麻痺機能検査（下肢）の検査手順を習得する。
	31	片麻痺機能検査⑧	上下肢を統合した実践的検査手順を習得する。
	32	筋緊張検査①	筋緊張への理解を深め、姿勢・運動との関連性を知る。
	33	筋緊張検査②	筋緊張検査方法を習得する
	34	バランス評価①	バランス機能を構成する基本的機能を知り、行為へのバランス機能の影響を理解する。
	35	バランス評価②	バランス機能検査を習得する。
	36	脳神経検査①	脳神経検査の概要を知り、脳神経検査の意味と目的を理解する。
	37	脳神経検査②	脳神経検査方法を習得する。
	38	症例検討　精神障がい分野①	症例を用いて、一般情報・医学的情報からの評価計画作成
	39	症例検討　精神障がい分野②	初期評価情報から、評価のまとめ、全体像の把握、ICFぶんるいを作成
	40	症例検討　精神障がい分野③	問題点抽出と目標設定、その考察を行う
	41	症例検討　精神障がい分野④	精神障がい分野の症例検討のまとめ
	42	症例検討　身体障がい分野①	症例を用いて、一般情報・医学的情報からの評価計画作成
	43	症例検討　身体障がい分野②	初期評価情報から、評価のまとめ、全体像の把握、ICFぶんるいを作成
	44	症例検討　身体障がい分野③	問題点抽出と目標設定、そ の考察を行う
	45	症例検討　身体障がい分野④	身体障がい分野の症例検討 のまとめ

授業科目 （科目ID）	作業療法評価法Ⅱ	担当教員	池田　保
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内病院において作業療法士として10年勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員	水尻　恵利伽
授業形態	講義・演習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内病院・介護保険施設にて作業療法士として5年勤務
		担当教員	小熊　真喜子
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内医療機関にて作業療法士として勤務
		担当教員	目黒　文彦
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内病院において作業療法士として14年勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　専門学校北海道リハビリテーション大学校　作業療法学科

授業科目（科目ID）	作業療法評価法Ⅲ	担当教員（実務経験）	池田　保 有 ☑　無 ☐　道内病院にて作業療法士として10年勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	通年科目である作業療法評価法Ⅱと連携して、身体障害領域における基本的検査手技を習得する。運動器系の状態把握に必須の徒手筋力検査を中心に学ぶ。				
到達目標	筋力とは何か、筋力低下が引き起こす状態、徒手筋力検査法の知識をもち、検査の実施が可能となる				
テキスト・参考図書等	新・徒手筋力検査法　原著第9版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験 実技試験
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	運動機能を理解する上で筋力検査は重要な位置を占めています。筋名、作用、神経支配、代償動作を含めて確実に実践できるようにしてください。机上の学習だけでは技術は身に付きません。繰り返しの練習が何よりも重要です。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、筋力	この科目の内容説明と　筋力低下が引き起こす問題、筋力検査の意味
	2	徒手筋力検査（MMT）、基本項目の確認	MMTに関する基本事項の確認
	3	MMT実技確認	1年次に実施した手技の確認（上肢）
	4	MMT実技確認	1年次に実施した手技の確認（下肢）
	5	MMT実技（上肢）	上肢のMMT実技
	6	MMT実技（上肢）	上肢のMMT実技
	7	MMT実技（上肢）	上肢のMMT実技
	8	MMT実技（上肢）	上肢のMMT実技
	9	MMT実技（下肢）	下肢のMMT実技
	10	MMT実技（下肢）	下肢のMMT実技
	11	MMT実技（下肢）	下肢のMMT実技
	12	MMT実技（下肢）	下肢のMMT実技
	13	MMT実技（頸部・体幹）	頸部・体幹のMMT実技
	14	MMT実技（頸部・体幹）	頸部・体幹のMMT実技
	15	MMT実技（頸部・体幹）	頸部・体幹のMMT実技

2023年度　専門学校北海道リハビリテーション大学校　作業療法学科　別紙1

授業科目 （科目ID）	作業療法評価法Ⅲ	担当教員 （実務経験）	水尻　恵利伽 有 ☑ 無 ☐ 市内病院・介護保険施設にて作業療法士として5年勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 担当教員	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	作業療法評価法実習Ⅰ	担当教員（実務経験）	山田　里見 有 ☑　無 ☐　道内病院にて作業療法士としての勤務経験		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義、演習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	身体障害及び発達障害における評価方法について具体的な評価法を用いるものと観察から評価していくものをそれぞれ学び、評価についての理解をより深めていく。また、評価しようとしているものが何なのか、その評価結果が何を表すのかを理解する。				
到達目標	各評価方法の目的、その結果が示す意味を答えられるようになる。正しい評価の実施が可能となる。				
テキスト・参考図書等	脳卒中の機能評価　SIASとFIM[基礎編]、標準作業療法学　作業療法評価学　第3版. 病気がみえるvol.7 脳・神経. 作業療法学ゴールドマスター高次脳機能障害作業療法学 改定第2版.				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	実際に臨床で用いられている評価方法を学びます。何のために行い、その評価で何がわかるのかという評価の目的・位置づけが非常に重要です。学習内容が多岐にわたり、量的にも多いので予習復習が必須です。また配布資料も多いので資料の整理も不可欠でしょう。

履修主題・履修内容

回数	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション、評価と検査について	この講義の進め方と評価についての確認
2	活動領域の評価（姿勢・動作の観察）	姿勢・動作観察と分析の方法、記載方法を習得する
3	活動領域の評価（姿勢・動作の観察）	姿勢・動作観察と分析の方法、記載方法を習得する
4	活動領域の評価（姿勢・動作の観察）	姿勢・動作観察と分析の方法、記載方法を習得する
5	活動領域の評価（ADL、IADL評価）	ADL評価の基本を理解する。観察と点数化のメリットデメリットを知る 各種ADL評価法（スコア）、BarthelIndexとFIMを特徴を知る
6	活動領域の評価（ADL、IADL評価）	FIMの採点方法を理解する
7	活動領域の評価（ADL評価の実践）	模擬対象者に対するADL評価の実践
8	活動領域の評価（ADL評価の実践）	模擬対象者に対するADL評価の実践
9	上肢・手指機能評価	上肢機能の基礎を理解する　各種上肢機能評価
10	上肢・手指機能評価	握力、ピンチ力、STEF
11	上肢・手指機能評価	STEF実習
12	高次脳機能評価	脳の機能局在と高次脳機能、高次脳機能評価の基礎
13	高次脳機能評価	意識、注意機能の評価
14	高次脳機能評価	半側空間無視と各種認知機能
15	高次脳機能評価	行為機能の評価

履修主題・ 履修内容	16	高次脳機能評価	遂行機能の評価
	17	発達障がい領域の評価①	小児知能評価（WISC－Ⅳ　他）
	18	発達障がい領域の評価①	小児知能評価（WISC－Ⅳ　他）
	19	発達障がい領域の評価②	感覚統合検査（JMAP　他）
	20	発達障がい領域の評価②	感覚統合検査（JMAP　他）
	21	発達障がい領域の評価③	発達検査（遠城寺・DenverⅡ　他）
	22	発達障がい領域の評価③	発達検査（遠城寺・DenverⅡ　他）
	23	プレ実習	臨床場面における身体障がい領域の評価体験

授業科目 （科目ID）	作業療法評価法実習Ⅰ	担当教員 （実務経験）	小熊　真喜子 有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員 （実務経験）	目黒　文彦 有 ☑ 無 ☐ 道内医療機関で作業療法士として14年勤務
授業形態	講義、演習		
		担当教員 （実務経験）	水尻　恵利伽 有 ☑ 無 ☐ 市内病院・介護保険施設において作業療法士として5年勤務
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	作業療法評価法実習Ⅱ	担当教員（実務経験）	小熊　真喜子 有 ☑　無 ☐　道内病院にて作業療法士として勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	・対象者理解にむけての精神・心理領域の評価手法について学び、評価についての理解を深める。				
到達目標	・対象者理解にむけての評価手法について学び、評価についての理解を深める。・特に精神分野作業療法の中で利用される評価法を列挙できる。・対象者を評価していく上での視点をつかみ、具体的な評価技術を習得する。				
テキスト・参考図書等	山根寛：精神障害と作業療法（第3版）　三輪書店 吉川ひろみ：COPM・AMPSスターティングガイド　三輪書店 岩崎テル子他編：標準作業療法学　作業療法評価学（第2版）．医学書院． 石川齊・古川宏編：図解　作業療法技術ガイド．文光堂				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験　（80%） 提出物（今日のまとめ・症状のまとめ）による点数（10%） 単元テスト（5%） 面接実技試験提出物（5%）
	レポート	%	
	小テスト（単元テスト）	5%	
	提出物	10%	
	その他	5%	

履修上の留意事項	実習を充実させるためにも教科書を使った予習・復習を勧める。単元テスト・実技テスト場面を利用してスキルを高めること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	授業オリエンテーション・実習日誌の流れ
	2	記録と報告・間接的情報収集	プレ実習オリエンテーション・記録と報告の方法　文書・他部門からの情報収集
	3	記録と報告・間接的情報収集	プレ実習オリエンテーション・記録と報告の方法　文書・他部門からの情報収集
	4	観察（1）	場面の観察・対象者の観察（第一印象を中心に）、観察場面の文章化・報告方法
	5	観察（2）	場面の観察・対象者の観察（第一印象を中心に）、観察場面の文章化・報告方法
	6	面接（1）	インテーク面接・説明と同意、情報収集面接　COPM　ナラティブな語りを聴く（1）
	7	面接（2）	インテーク面接・説明と同意、情報収集面接　COPM　ナラティブな語りを聴く（2）
	8	作業観察・作業面接　（1）	構成的作業分析と投影的作業分析
	9	まとめ（1）	面接実技試験、面接実技試験に対するフィードバック
	10	まとめ（1）	面接実技試験、面接実技試験に対するフィードバック
	11	まとめ（1）	面接実技試験、面接実技試験に対するフィードバック
	12	心身機能（1）	心身機能の種類・心身機能を把握する評価手段、心身機能の種類・心身機能を把握する評価手段不安・抑うつ検査
	13	心身機能（2）	精神症状の種類と分類（1）
	14	心身機能（3）	精神症状の種類と分類（2）
	15	まとめ（2）　活動と参加（1）	精神症状単元テスト　　ADL・APDL・作業遂行能力の評価

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	活動と参加（2）	RehabとLASMI　職業能力の評価
	17	活動と参加（3）	集団適応技能と集団評価
	18	活動と参加（4）	集団適応技能と集団評価
	19	環境因子	環境因子の評価手段
	20	個人因子（1）	性格・興味関心・QOL・価値・自己認識の評価、興味関心チェックリスト・役割チェックリスト
	21	個人因子（2）	性格・興味関心・QOL・価値・自己認識の評価、興味関心チェックリスト・役割チェックリスト
	22	まとめ（3）	プレ実習①、：1・2年合同授業　前期の振り返りと後期の目標
	23	まとめ（4）	プレ実習②、：当事者との面接体験

授業科目 （科目ID）	作業療法評価法実習Ⅱ	担当教員	柿崎　貴浩
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 市内精神科デイケアに10年、精神科病院に1年、老健施設に1年勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員	工藤洋平
授業形態	実習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 市内精神科病院に12年勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	身体障害作業治療学Ⅱ	担当教員（実務経験）	山田　里見 有 ☑　無 ☐　道内病院にて作業療法士として6年勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分		単位数	3単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	45	時間数	90時間
授業目的	脳血管障害をはじめ、作業療法の臨床場面で関わる機会の多い身体障がい領域の疾患・障害について、作業療法士の視点から障害理解を深め、対象者の生活面への影響を含めて捉えることを目標とする。				
到達目標	身体障がい領域の疾患・障害について、知識を有することになる。				
テキスト・参考図書等	病気がみえる脳と神経（第2版）、図解作業療法技術ガイド（第4版）、作業療法学ゴールドマスターテキスト：高次脳機能障害作業療法学（第3版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	中間試験、定期試験（前期・後期）
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	身体障がい分野の作業療法で主要な疾患・障がいである脳卒中片麻痺を中心に、運動失調症、パーキンソン病、整形疾患、廃用症候群等を学びます。非常に重要な内容です。臨床のイメージをできるだけもてるような授業展開を心掛けますが、学習者である皆さんからも積極的な質問、参加を期待します！

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	脳血管障害①	脳画像のみかた
	2	脳血管障害①	脳画像のみかた
	3	脳血管障害①	発症部位別主症状、脳の可塑性、運動と感覚について
	4	脳血管障害①	運動の異常について、 片麻痺の回復について（ブルンストロームステージ）
	5	脳血管障害①	片麻痺の回復について、ブルンストロームステージ
	6	脳血管障害①	片麻痺患者の姿勢・動作の特徴（背臥位、座位）
	7	脳血管障害①	片麻痺患者の姿勢・動作の特徴（寝返り）
	8	脳血管障害①	片麻痺患者の姿勢・動作の特徴（起き上がり）
	9	脳血管障害①	片麻痺患者の姿勢・動作の特徴（立上がり）
	10	脳血管障害①	片麻痺患者の姿勢・動作の特徴　まとめ
	11	脳血管障害①	高次脳機能障害について（注意・USN・認知機能）
	12	脳血管障害①	〃
	13	脳血管障害①	高次脳機能障害について（行為障害・遂行機能障害）
	14	脳血管障害①	〃
	15	脳血管障害①	高次脳機能障害について（失語症）

履修主題・履修内容	16	パーキンソン病	パーキンソン病、パーキンソニズムの疾患および症状理解を深める
	17	パーキンソン病	〃
	18	パーキンソン病	パーキンソン病、パーキンソニズムの作業療法アプローチ
	19	パーキンソン病	〃
	20	運動失調症	運動失調症を引き起こす各種疾患とその症状理解を深める（脊髄小脳変性症）
	21	運動失調症	〃
	22	神経難病	筋萎縮性側索硬化症について疾患および症状の理解を深める
	23	神経難病	多発性硬化症について疾患および症状の理解を深める
	24	神経難病	ギランバレー症候群について疾患および症状の理解を深める
	25	神経難病	〃
	26	廃用症候群	廃用症候群について（概要と評価）
	27	廃用症候群	廃用症候群について（作業療法アプローチ）
	28	関節リウマチ	関節リウマチ（疾患概要）
	29	関節リウマチ	関節リウマチ（変形について）
	30	関節リウマチ	関節リウマチ（作業療法アプローチ）
	31	脳血管障害②	脳血管障害についての臨床的推論のための基礎知識（姿勢保持障害の分析）
	32	脳血管障害②	脳血管障害についての臨床的推論のための基礎知識（　〃　）
	33	脳血管障害②	脳血管障害についての臨床的推論のための基礎知識（上肢機能の分析）
	34	脳血管障害②	脳血管障害についての臨床的推論のための基礎知識（肩の痛みの分析）
	35	脳血管障害③	脳血管障害①内容を踏まえて、より臨床場面に即した症状理解を図る
	36	脳血管障害③	脳血管障害①内容を踏まえて、より臨床場面に即した症状理解を図る
	37	整形疾患	骨折（総論：概要）
	38	整形疾患	骨折（各論①：上腕骨骨幹部骨折）
	39	整形疾患	骨折（各論②：橈骨遠位端骨折、大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折）
	40	整形疾患	末梢神経損傷の作業療法
	41	整形疾患	腱損傷の作業療法
	42	脊髄損傷	脊髄損傷の疾患および症状理解を深める(解剖・生理学的基礎知識の復習）
	43	脊髄損傷	脊髄損傷の概要、分類（ASIA、ザンコリー、フランケル）
	44	脊髄損傷	脊髄損傷の神経学的評価（高位診断・横位診断）
	45	脊髄損傷	脊髄損傷の臨床症状、機能的予後

授業科目 （科目ID）	身体障害作業治療学Ⅱ	担当教員	和田　英峰
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として8年勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員	池田　保
授業形態	講義	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内病院、介護保険施設にて10年勤務
		担当教員	外部講師
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目 （科目ID）	精神障害作業治療学Ⅱ	担当教員 （実務経験）	小熊　真喜子 有 ☑　無 ☐　道内病院にて作業療法士として勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30	時間数	60時間
授業目的	①対象疾患別、回復期別の作業療法の基本的事項を説明できる。、②作業療法の具体的な援助方法について説明できるようになる。				
到達目標	各精神疾患の理解と作業療法における視点を知る。				
テキスト・ 参考図書等	・精神障害と作業療法　第3版、・作業療法学ゴールドマスターテキスト　精神障害作業療法学（改訂第2版）、・標準理学療法・作業療法学　精神医学　第3版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90%	前期・後期定期試験を実施する。　授業中の提出課題は後期期末テストにおける基礎点とする。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	10%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	個々の疾患特性とともに作業療法における援助の基本を学ぶ。整理しつつ勉強していくこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	授業オリエンテーション、精神OTⅠの復習・精神科作業療法の評価
	2	評価概論	評価とは、評価の手段、項目、流れ、観察と面接
	3	評価概論	評価とは、評価の手段、項目、流れ、観察と面接
	4	精神科分野における医療・保健・福祉・就労分野の作業療法	精神科医療、保健、福祉、就労分野におけるOTの役割と評価
	5	精神科分野における医療・保健・福祉・就労分野の作業療法	精神科医療、保健、福祉、就労分野におけるOTの役割と評価
	6	精神科分野における医療・保健・福祉・就労分野の作業療法	精神科医療、保健、福祉、就労分野におけるOTの役割と評価
	7	統合失調症	統合失調症の疾患論と回復過程に合わせた作業療法、統合失調症の事例学習
	8	統合失調症	統合失調症の疾患論と回復過程に合わせた作業療法、統合失調症の事例学習
	9	統合失調症	統合失調症の疾患論と回復過程に合わせた作業療法、統合失調症の事例学習
	10	気分障害	気分障害（うつ）の疾患論、気分障害（躁）の疾患論、気分障害の回復過程に合わせた作業療法①、気分障害の事例学習
	11	気分障害	気分障害（うつ）の疾患論、気分障害（躁）の疾患論、気分障害の回復過程に合わせた作業療法①、気分障害の事例学習
	12	気分障害	気分障害（うつ）の疾患論、気分障害（躁）の疾患論、気分障害の回復過程に合わせた作業療法①、気分障害の事例学習
	13	気分障害	気分障害（うつ）の疾患論、気分障害（躁）の疾患論、気分障害の回復過程に合わせた作業療法①、気分障害の事例学習
	14	てんかん	てんかんの疾患特性と作業療法の基本的流れ
	15	知的障害	知的障害の特性と作業療法の基本的流れ

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	知的障害	知的障害の特性と作業療法の基本的流れ
	17	自閉症スペクトラム	自閉症スペクトラムの概要と作業療法
	18	神経症性障害	神経症の概要と作業療法
	19	統合失調症	統合失調症の疾患論と回復過程に合わせた作業療法、統合失調症の事例学習
	20	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害の疾患特性、パーソナリティ障害に対する作業療法
	21	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害の疾患特性、パーソナリティ障害に対する作業療法
	22	アルコール使用障害・アディクション	アルコール使用障害の症状と回復過程、アルコール使用障害・アディクションに対する作業療法
	23	アルコール使用障害・アディクション	アルコール使用障害の症状と回復過程、アルコール使用障害・アディクションに対する作業療法
	24	アルコール使用障害・アディクション	アルコール使用障害に対する作業療法の実際、家族会活動
	25	当事者の生活を聴く	当事者による障害体験、当事者活動について
	26	当事者の生活を聴く	当事者による障害体験、当事者活動について
	27	当事者視点による生活支援	精神障害の歴史、地域で暮らす精神障害者
	28	当事者視点による生活支援	精神障害の歴史、地域で暮らす精神障害者
	29	当事者視点による生活支援	精神障害の歴史、地域で暮らす精神障害者
	30	当事者視点による生活支援	精神障害の歴史、地域で暮らす精神障害者

授業科目 （科目ID）	精神障害作業治療学Ⅱ	担当教員	柿崎　貴浩
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内精神科デイケアに10年、精神科病院に1年、老健施設に1年勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員	工藤　洋平
授業形態	講義	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内精神科病院にて作業療法士として12年以上勤務。
		担当教員	河野　仁志
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内精神科病院に6年勤務。国立大学にて精神障害作業療法学等を24年間に渡り担当
		担当教員	服部　篤隆
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内精神科デイケアに10年・就労継続支援事業所にて7年精神保健福祉士として勤務
		担当教員	杉本　千晴
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内精神科病院、デイケアにて作業療法士として15年以上勤務
		担当教員	佐藤　和正
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内精神科病院・医療施設にて作業療法士として12年以上勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	発達障害作業治療学Ⅱ	担当教員 （実務経験）	目黒　文彦 有 ☑　無 ☐　道内病院にて作業療法士として14年勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	作業療法士が関わる発達障がい、疾患別の特徴やアプローチについて学ぶ。発達作業療法Ⅰで学んだ正常発達から実際にさまざまな年齢の正常児との関わりから観察したことをレポートにまとめる。				
到達目標	脳性麻痺、学習症、自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障害、二分脊椎、筋ジストロフィー症について、その障害特性、評価について説明できる また、治療概念について基礎的な知識をもつ				
テキスト・参考図書等	発達作業療法治療学Ⅰで使用したものを使う、脳性麻痺　第2版、感覚統合Q&A				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験 評価は定期試験にて行うが、正常発達児実習後のレポートを課す。提出期限厳守での提出を求める。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	
	1年次に学んだ正常発達の理解を元に、作業療法士が関わる事の多い発達障がいに関する特徴、その評価や治療についての知識、理解を深めます。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション・発達障害領域の作業療法各論について	正常発達の講義を受け、発達障害領域の作業療法士の役割とその意義
	2	脳性麻痺	脳性麻痺について（特徴、評価、治療）①
	3	脳性麻痺	脳性麻痺について（特徴、評価、治療）②
	4	脳性麻痺	脳性麻痺について（特徴、評価、治療）③
	5	脳性麻痺	脳性麻痺について（特徴、評価、治療）④
	6	脳性麻痺	脳性麻痺について（特徴、評価、治療）⑤
	7	脳性麻痺	脳性麻痺について（特徴、評価、治療）⑥
	8	正常児実習	保育園で実習（正常児について体験する）
	9	正常児実習	保育園で実習（正常児について体験する）
	10	学習症	学習症について（特徴、評価、治療） 感覚統合・学習症について（特徴、評価、治療）
	11	自閉スペクトラム症	自閉スペクトラム症について（特徴、評価、治療）
	12	注意欠如多動症（ADHD）	注意欠如多動症について（特徴、評価、治療）
	13	二分脊椎	二分脊椎について（特徴、評価、治療）
	14	筋ジストロフィー（DMDを中心に）	筋ジストロフィーについて（特徴、評価、治療）①
	15	筋ジストロフィー（DMDを中心に）	筋ジストロフィーについて（特徴、評価、治療）②

授業科目 （科目ID）	発達障害作業治療学Ⅱ	担当教員	湯川 正雄
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内発達医療センターにて作業療法士として20年以上勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員	
授業形態	講義	（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	老年期作業治療学	担当教員 （実務経験）	水尻 恵利伽 有 ☑ 無 ☐ 市内病院・介護保険施設にて作業療法士として5年勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	高齢者のおかれている現代社会の状況や身体・精神機能の特徴を知り、老年期における作業療法の役割を理解する。				
到達目標	①高齢者の特徴を捉えることができる。②高齢者を取り巻く、さまざまな問題を把握することができる。③高齢者を対象とした作業療法サービスについて説明ができる。				
テキスト・参考図書等	標準作業療法学　高齢期作業療法学　第3版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	高齢者のおかれている現代社会の状況や身体・精神機能の特徴を知り、老年期における作業療法の役割を理解すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	OTが老年期を学ぶ意味　歳を重ねるということ
	2	高齢者の身体機能・精神機能	高齢者の生理的変化を理解する。
	3	高齢者の心理的問題と発達課題	高齢者がもつ心理的問題と発達課題を知る。
	4	高齢者の障害の特徴	高齢者に多く見られる障害や症状を知る。
	5	高齢者の障害の特徴	高齢者に多く見られる障害や症状を知る。
	6	高齢者の障害の特徴	高齢者に多く見られる障害や症状を知る。
	7	評価法	高齢対象者に用いられる評価方法を知る。
	8	認知症	認知症の種類とその特徴を知る。、認知症対象者や家族が抱える主観的体験を理解する。
	9	認知症	認知症の種類とその特徴を知る。、認知症対象者や家族が抱える主観的体験を理解する。
	10	認知症	認知症の種類とその特徴を知る。、認知症対象者や家族が抱える主観的体験を理解する。
	11	認知症	認知症の種類とその特徴を知る。、認知症対象者や家族が抱える主観的体験を理解する。
	12	高齢者に関する社会制度	医療費問題と介護保険、介護保険サービスの概略
	13	参加領域への関わり	参加領域への関わりを老年期と関連付けて考える
	14	高齢対象者へのOTアプローチ①②	具体的事例を通してOTアプローチに触れる①②
	15	高齢対象者へのOTアプローチ①②	具体的事例を通してOTアプローチに触れる①②

2023年度　専門学校北海道リハビリテーション大学校　作業療法学科　別紙1

授業科目 （科目ID）	老年期作業治療学	担当教員 （実務経験）	池田　保 有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として10年勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	作業療法演習Ⅰ	担当教員（実務経験）	水尻　恵利伽 有 ☑　無 ☐　市内病院・介護保険施設にて作業療法士として5年勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	解剖学・生理学・運動学を復習し、症状・障害や作業療法と結びつけることができる。将来の国家試験や臨床実習に向けた基礎学力の構築を目指す。				
到達目標	1年次に学習した解剖学、生理学、運動学について復習し、適切に説明・選択することができる。 評価学や疾患学と関連性の高い項目についての知識・理解を確実なものとする。				
テキスト・参考図書等	基礎運動学　第6版　補訂、カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで、筋学ハンドブック、 標準理学療法学作業療法学専門基礎分野、生理学（第5版）、病気がみえる脳と神経vol.7（第2版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	専門基礎分野は単なる試験のための知識だけでなく、評価学や治療学に結び付き、臨床実習において対象者を理解するうえでも必須のものある。積み残しを解消するようこころがけること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。
	2	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。
	3	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。
	4	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。
	5	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。
	6	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。
	7	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。
	8	解剖学・生理学	呼吸、循環器、神経系、筋の機能を中心に、解剖学・生理学の復習を行う。
	9	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。
	10	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。
	11	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。
	12	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。
	13	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。
	14	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。
	15	運動学	関節の特徴と運動方向、筋の作用について復習する。

2023年度　専門学校北海道リハビリテーション大学校　作業療法学科

授業科目（科目ID）	臨床実習Ⅰ	担当教員 （実務経験）	水尻　恵利伽 有 ☑　無 ☐　市内病院・介護保険施設にて作業療法士として5年勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	68	時間数	135時間
授業目的	学内で修得した知識・技術、および臨床見学実習において学んだことを臨床実習指導者の指導の下、応用・活用する。症例を通じて初期評価、目標設定までの過程を体験する。				
到達目標	臨床実習指導者の指導の下、対象者との適切な関係を築きながら、対象者の状態に合わせた情報収集、評価、全体像の把握、作業療法目標設定ができる。				
テキスト・参考図書等	特に指定はないが、対象者の症状、状態、関わりの段階に合わせて1～2年次に使用してきた教科書や授業資料を活用する。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	実習出席状況、実習日誌・症例報告サマリーシート、ケースノートなどの提出物および臨床教育者が作成する学生評価表、実習終了後の実習セミナーでの発表内容および参加状況により総合的に判定する。 ①臨床教育者が実習期間の学生の状況を評価した学生評価表の結果を4割と換算 ②学校でのセミナー等での成績を6割と換算 上記をあわせて6割以上の成績にて臨床実習Ⅰの単位取得とする。ただし、実習期間での学生評価の項目にてD以下の判定が6個以上（全体の25%以上）の場合は不合格と判断される。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	100%	

履修上の留意事項	十分な準備を行ってから実習に臨んでください。ご協力いただく対象者様の気持ちを考え、感謝の念を持って実習を行ってください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
		実習前セミナー	評価実習で必要な知識・技術の再確認と演習
	1	実習前評価	実習前筆記・実技試験にて、直接患者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。
	2-67	臨床実習（評価）	臨床実習施設において、臨床実習指導者の指導の下、実習を行う ①症例の全体像を把握するための評価計画を立案する
			②実際の症例を通じて情報収集と評価を実施する
			③得られたデータを整理、分析し症例の全体像をまとめる、問題点を抽出し、（治療目標を設定する）
	68	実習後評価	実習における教育成果の判定にはサマリー発表の内容や提出物について確認し、実習指導者評価と教員評価とを合わせて総合的に判定する。
		実習後セミナー	実習での体験、得られた知識・技術等の総括を、発表会を通して行う

授業科目 （科目ID）	臨床実習Ⅰ	担当教員	柿崎 貴浩
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 市内精神科デイケアに10年、精神科病院に1年、老健施設に1年作業療法士として勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員	目黒 文彦
授業形態	実習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として14年勤務
		担当教員	和田 英峰
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として8年勤務
		担当教員	山田 里見
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として6年勤務
		担当教員	池田 保
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として10年勤務
		担当教員	小熊 真喜子
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　作業療法学科

授業科目（科目ID）	日常生活活動実習（OT）	担当教員（実務経験）	和田　英峰 有 ☑　無 ☐　道内病院にて作業療法士として8年勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	ADL評価を模擬的に体験し、観察の視点を学ぶ。ADL遂行困難への作業療法上の治療的対応方法を学ぶ。				
到達目標	ADL観察の技術を修得し、ADL評価が可能となる				
テキスト・参考図書等	作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト日常生活活動学（ADL）、精神障がい者ケアマネジメントの進め方				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	筆記試験において、100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	ADLへの介入は作業療法にとって非常に大切な視点です。実践に結び付けられるよう積極的な参加を期待します。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション・基本動作観察①　寝返り	健常者とCVA片麻痺患者の寝返り動作の評価・介入
	2	基本動作観察②　起き上がり	健常者とCVA片麻痺患者の起き上がり動作の評価・介入
	3	基本動作観察③　座位・立位	健常者とCVA片麻痺患者の座位・立位の評価・介入
	4	基本動作観察④　移乗	健常者とCVA片麻痺患者の移乗動作の評価・介入
	5	基本動作観察⑤　歩行・階段昇降	健常者とCVA片麻痺患者の歩行・階段昇降の評価・介入
	6	基本動作観察⑥　W/C移動	健常者とCVA片麻痺患者のW/C移動の評価・介入
	7	ADL観察の実際①　食事	健常者とCVA片麻痺患者の食事評価・介入①
	8	ADL観察の実際②　食事	健常者とCVA片麻痺患者の食事評価・介入②
	9	ADL観察の実際③　整容	健常者とCVA片麻痺患者の整容評価・介入①
	10	ADL観察の実際④　整容	健常者とCVA片麻痺患者の整容評価・介入②
	11	ADL観察の実際⑤　更衣	健常者とCVA片麻痺患者の更衣評価・介入①
	12	ADL観察の実際⑥　更衣	健常者とCVA片麻痺患者の更衣評価・介入②
	13	ADL観察の実際⑦　排泄	健常者とCVA片麻痺患者の排泄評価・介入
	14	ADL観察の実際⑧　入浴	健常者とCVA片麻痺患者の入浴評価・介入
	15	ADL観察の実際⑨　各種疾患のADL	パーキンソン病患者のADL評価・介入

履修主題・ 履修内容	16	ADL観察の実際⑩　各種疾患のADL	リウマチ患者のADL評価・介入
	17	ADL観察の実際⑪　各種疾患のADL	呼吸器系疾患患者のADL評価・介入
	18	精神障がい者のADL実際	精神疾患・障害の特性とホームヘルプサービス、当事者ニーズと必要性、事例を通した日常生活における困難性を分析する、（グループディスカッション）、グループディスカッション発表
	19	精神障がい者のADL実際	精神疾患・障害の特性とホームヘルプサービス、当事者ニーズと必要性、事例を通した日常生活における困難性を分析する、（グループディスカッション）、グループディスカッション発表
	20	精神障がい者のADL実際	精神疾患・障害の特性とホームヘルプサービス、当事者ニーズと必要性、事例を通した日常生活における困難性を分析する、（グループディスカッション）、グループディスカッション発表
	21	精神障がい者のADL実際	精神疾患・障害の特性とホームヘルプサービス、当事者ニーズと必要性、事例を通した日常生活における困難性を分析する、（グループディスカッション）、グループディスカッション発表
	22	精神障がい者のADL実際	精神疾患・障害の特性とホームヘルプサービス、当事者ニーズと必要性、事例を通した日常生活における困難性を分析する、（グループディスカッション）、グループディスカッション発表
	23	精神障がい者のADL実際	精神疾患・障害の特性とホームヘルプサービス、当事者ニーズと必要性、事例を通した日常生活における困難性を分析する、（グループディスカッション）、グループディスカッション発表

授業科目 （科目ID）	日常生活活動実習（OT）	担当教員	柿崎　貴浩
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 市内精神科デイケアに10年、精神科病院に1年、老健施設に1年勤務
対象年次・学期	2年・前期	担当教員	
授業形態	実習	（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐